



# 令和7年度 八王子市立上川口小学校

## 学校経営報告書

八王子市立上川口小学校  
校長 市川 利幸

### I 今年度の重点取組〔9つの柱〕と自己評価 自己評価… ◎成果大 ○成果あり △課題

| << 重点目標 >>   | << 自己評価 >>   |
|--|--|
| <p><b>1 学習規律と学習習慣を確立する「学びの構え」の徹底と基礎的・基本的な学力の向上</b></p> <p>① 学びに向かう3つの構え「身構え・心構え・物構え」の指導を徹底し、発達段階に応じた学習規律と学習習慣を身に付けさせる。</p> <p>② 朝の全校一斉漢字学習（週1回×15分）を活用し、「自分にあった学び方」を見つけ、確実に身に着的けるための課題解決の場面とする。</p> <p>③ 放課後フォローアップタイム（週3回×20分）を活用した学習支援による学びの定着を図る。</p> <p>④ 学習の自立と自律を目指し、一人一台の学習用端末の活用による個別最適化された授業づくりと個別学習ソフト「ミライシード」による反復と既習内容の徹底を図り、「はちおうじっ子ミニマム」での100%の定着を目指す。</p> <p>⑤ 課題解決型の学習の視点から、総合的な学習の時間では、本校の課題解決型の学び方「感じる・見つける・考える・まとめる・生かす」を踏まえた探究的な学習活動を積極的に展開する。</p> <p><b>2 共によりよく生きようとする</b><br/><b>自治的・自主的な態度と力を育てる</b></p> <p>① 特別活動（縦割り班活動や学級活動、学校行事等）を要とし、「人と関わる力」の向上を図り、感謝の気持ちとみんなのために役立つ喜びを味わわせる。</p> <p>② 複式学級を伴う小規模校の特性を生かし、学級における「自治の力」を育む場面の設定をする。その中において、特に第6学年は、全員がリーダーを分担し、責任と役割を成し遂げる力を伸ばすため、重点的に育成する。</p> <p><b>3 信頼され、魅力ある学校づくりに向けた</b><br/><b>家庭・地域との連携</b></p> <p>① 開校150周年を契機として、歴史とつながりへの感謝を深めるとともに、学校にかかわる全ての人がウェルビーイングを実感できる魅力ある学校づくりをめざす。</p> | <p>① ○<br/>全教員が、基礎基本の定着に必要な要素として指導に取り組んでおり、3つの構えが学習の自立と自律には欠かせないものとして共通認識している。</p> <p>② ③ ◎<br/>今年度より、全学級共通方式による一斉漢字学習を開始した。「学びの習慣化」と「自分に合った学び方」を身に付けられるよう小規模校の特性を生かし、一人ひとりに合った学習方法の定着に担任が寄り添って取り組んでいる。</p> <p>① ○<br/>一人一台の学習用端末を活用した学びは、完全に常態化している。個別学習ソフトを活用した学習は効率的であると同時に、「この学年でできるようにしよう」という意識付けに大きく貢献している。</p> <p>② △<br/>本校の特性を生かした活動が多い、総合的な学習の時間、生活科、特別活動などでは、探究的な学習活動に取り組んでいる。今後は「生かす」を取り入れた活動に良い展開ができる余地が多いと考える。</p> <p>①② △<br/>小規模校の特性を生かし、「人と関わる力の向上」を土台に「自治の力」を育む場面の意図的な設定が取り組まれている。高学年を中心に、責任と役割を考え行動する力、共に楽しむ力の育成に取り組んでいる。</p> <p>① ◎<br/>開校150周年関連の諸行事や式典では、受け継がれてきた学校を大切に思う気持ちを全児童、保護者、来賓、地域の皆様と共有して終えることができた。</p> |

② 積極的な教育活動の情報発信に努め、学校だより（月1回）、学級・専科だより（月2回以上）、学校日記（週2回以上）、配信メールなど常に情報の発信と更新を行う。

③ 就学前教育施設やフリースクール、放課後デイサービス等の施設との情報交換、地域のゲストティーチャーとの継続的な授業連携を推進し、この地域で育つ子どもたちの拠点としての学校の役割を果たす。また、学校運営協議会との協働を重視することで、保護者や地域の声・意見を学校経営に生かしていく

#### 4 組織的で計画的な生活指導を通し、

##### 安心・安全な学校を目指す

① 学校いじめ対策委員会（毎週金曜日）は全教員・都スクールカウンセラー・特別支援教室巡回指導教員、専門員が集合して実施する。いじめ・不登校案件はもとより、生活指導上の気付きについても全体共有し、支援の場とする。特に生命に係る言動・行動の情報の集約と対応は、「迅速・的確・誠実」を第一とする。

② 学校はいじめを絶対に許さない! という明確なメッセージを強く発信する。全児童を全教職員で見守ることを共通認識とするとともに、差別、偏見、いじめ、生命に係る言動や行動の予防、認知、組織的な指導を推進から、安心できる学校づくりを推進する。

③ 交通安全、災害時の安全についても徹底を図る。また、デジタル機器の利用は日々深化しており、デジタル・シティズンシップの基礎段階として、自分で適切に判断ができる力を育むことを重視する。

④ 児童の心理的安全性を高める学級経営・専科経営を校内研究の主題に定め、教員の学級経営における指導力の向上と育成を行う。

#### 5 児童一人一人を大切にした相談体制と

##### 特別支援教育の充実

① 相談できる大人がいる児童 100%を堅持するとともに、都スクールカウンセラーによる全児童面談を、年3回(各学期1回)実施する。

② ◎

全学級が週に1度以上の頻度で学級だよりを作成し保護者へ子供たちの様子を発信し続けている。また、学校HP内の「学校日記」は、写真とコメントを少なくとも週3度は更新して配信している。次年度も継続させる。

③ △

学童保育所や複数の放課後デイサービス施設と情報交換を行っている。残念ながら本校の学区域内に保育園・幼稚園等の就学前施設がなく、保幼小連携を年間を通して実施することが難しく、この点においては停滞していると言わざるを得ない。

① ◎

学校いじめ対策委員会は、小規模校の特性を生かし、いじめ以外の生活指導上のトラブルを含む些細な変化についても、全職員で共有する場として活用している。（本年度、新規いじめ認知件数：1件）

② ○

「学校はいじめを絶対に許さない!」というメッセージを発信し続けている。全教職員が全児童の指導者としての心と目をもち、差別、偏見、いじめ、自他の生命に係る児童の言動・行動などの問題の予防、発見に努め、組織的・継続的な指導を推進した。また、保護者との緊密な連携も併せて推進した。

③ ○

交通・風雪災害の安全については、里山の多い地域環境に合わせて計画・指導をしている。デジタル機器は安全・安心な活用方法について、文科省・都教委の資料を基に「これからよりよく生きるためにどう正しく使うか」を指導する視点を加え、全児童に年3回実施を継続している。

④ ○

学級が児童にとって生活の基盤となり、自分の居場所とできるよう、「児童の心理的安全性を高める学級経営」を主題と定めて2年間の校内研究を実施し、全国学級経営研究大会東京都代表校として実践発表にも取り組んだ。

① ◎

スクールカウンセラーや巡回心理士による保護者への面談、担任や管理職が保護者と共有・連携する相談体制など、個に応じた相談体制の選択肢を今後も充実さ

- ② 学習する上での障害や、困難さを取り除く合理的配慮のある手だてを講じる。ユニバーサルデザインの考えに基づき、「学習の見通しをもたせる」「学習できる環境を整える」ことの推進を重視する。
- ③ 校内委員会（特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、都スクールカウンセラー、巡回指導教員、養護教諭、管理職）を中心に、「連携型個別指導計画」「学校生活支援シート」を活用した組織的で計画的な指導と支援を実施する。

## 6 地域に根差した学校教育を通して、 「子供たちの元気を地域に広げる」

- ① 豊かな自然環境を生かした野鳥・自然観察、稲作体験、里山ウォークラリー等、自然や動植物の生命を尊重し、環境保全を学んだ次代を担う持続可能な社会の創り手の育成を目指し、「地域の特色を価値に気付く学び」を充実させる。
- ② 地域の伝統文化を生かした「上川子ども獅子」を継承し、地域活動への積極的参加を通して、伝統文化と郷土を大切にしている心身の育成と伝える力の向上を図る。

## 7 人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付ける

- ① 「あいさつ」を今年度の重点とする。また、正しい言葉遣い等、望ましい生活習慣や社会的ルールについて、教職員が率先垂範するとともに具体的な場面を想定した指導に心がけ、規律と思いやりのある生活を送れるよう支援・指導をする。
- ② 特別の教科「道徳」においては、教科書とノートを効果的に活用しながら考える道徳、議論する道徳の実践を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。
- ③ 「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」として、7月に「SOS の出し方に関する教育」、11月に「上川のいのちの日」の取組を実施する。また、デフリンピックの日本開

せていく。また、本年度も継続して「相談できる大人のいる子=100%」を堅持することができている。

② △  
特別支援を必要とする児童だけにとどまらず、環境を起因とする学習の困難さは取り除くべきである。ユニバーサルデザインを考慮した教室環境づくりは引き続き推進する。

③ ○  
組織的な対応から指示・周知はできている。しかしながら人面談週間前などの定期開催以外にも、臨時に共有すべき事項が多いため、令和8年度からは原則金曜日に30分の校内委員会を設定する方向で変更する。

① ○  
本校の特色である「稲作活動」では、NPO 法人まちづくり上川の方々と市環境保全課のきめ細やかな支援により、児童が一連の農作業を本格的に体験させていただいている。今年度も、夏の酷暑を乗り越え全校児童、全ボランティアで収穫の喜びを分かち合う活動とすることができた。「正しいラジオ体操教室」は、地元ラジオ体操会との連携により、150周年記念運動会にも大変数多くの地域の方の来校にもつながり、「子供たちの元気を地域に広げる」活動として大変有意義であった。次年度も継続できるよう、関係各所と調整中である。

② ○  
郷土に伝わる文化への理解と郷土を愛する心情を育てると共に、人間関係づくりや高学年のリーダーシップ育成の視点でも成果をあげている。今後、地域の文化財である今熊・田守の獅子舞の担い手としての小学校での体験がかけ橋となるような活動の活性化が必要と考える。

① ○  
「あいさつ」への取組は、年間を通して折に触れて重点的に指導を実施した。望ましい学校生活の第一歩として、小規模校の特性を生かし、「全員の先生が児童全員の先生」という意識をもって指導に臨んでいる。今後も継続する。

② △  
本年度より、道徳的な判断力、心情と実践意欲を育て、考える道徳、議論する道徳の実践に向けた2学年合同にカリキュラムを改めて取り組んだ。少人数ながらも1学年上の児童からは、一歩踏み込んだ考えの表出も多くみられている。

③ ○  
道徳授業公開に合わせ、現役のデフリンピック男子サッカー日本代表選手の来校が実現し、親子体験会が実

催に合わせ、9月にデフサッカーの指導者、選手をゲストティーチャー招いて親子体験会と道徳授業公開併せて開催し、障がい者理解に向けた道徳的な学びの機会とする。

## 8「上川口 美山 にっこりプラン(小中連携)」4年目の推進と小中一貫教育川口中学校区5校による連携の強化

- ① 川口中学校への進学を見通し、隔遠地小規模2校(上川口小・美山小)の交流活動を低学年から積み重ねることにより、緩やかな人間関係の構築をねらいとする。
- ② 川口中学校での行事見学・授業や部活動の体験により、小学校6年生には中学校への希望と意欲付けに加え、「上川口 カムバックデー」の取組から運動会や稲作体験活動など、地域活動への中学生の合同参加を積極的に促した小中の連携も実施する。
- ③ 川口中学校区「小中一貫教育の日」と5校連絡校長会を中心に、小中学校9年間の一貫した教育に向け、5校間での合同実施工事の充実を通して円滑な接続を図る。

## 9 教育公務員としての「使命感」と「サービスの厳守」。

- ① 人権教育理解研修、サービス事故防止研修、危機管理研修、体罰防止研修等の着実な実施を重ね、教育公務員としての自覚と資質の向上を図り「サービス事故ゼロ」を貫徹する。
- ② 教職員一人一人が役割と責任、職層を自覚し、報告・連絡・相談・記録を徹底する。各分掌におけるライン系統を明確化することにより、互いに支え合い補完し合える学校組織として強化していく。
- ③ 学校危機管理においては、全教職員が一丸となって取り組む。「働き方」の見直しと、意図的・効果的な校務の遂行は、教職員組織全体の活力と直結することとして捉える。なお、時間外における在校時間 45 時間以内を徹底する。

施できた。学習発表会での児童の言葉にもその体験が発表され、障がい者理解に向けた貴重な機会とすることができた。

### ① 〇

「にっこりプラン」は、4年目となり児童同士での交流はもちろん、教員同士の連携も大変スムーズに行えている。2校交流での経験から中学校での人間関係をうまくスタートできたとの卒業生の声も届いている。小規模校を卒業生にとって重要な活動であるとの認識を全職員で共有し、活動の充実を図っていく。

### ② △

学校行事と地域活動における両面から小中連携を深めていきたいと考える。学校間の距離も遠く徒歩圏内ではないこともあり難しい状況ではあるが、合同参加を積極的にうながして連携を実施する。

### ③ △

次年度より始まる「八王子市版キャリア教育」の実施に向け、5校の共通目標に向けて連携の強化を図ることが喫緊の課題として挙げられる。

### ① 〇

人権教育の理解、サービス事故防止、危機管理、体罰防止の4つの研修は「教育公務員としての自覚と資質を確認する最も重要研修」と位置づけている。今後も、継続的に周知・指導の徹底を図り続けていく。

### ② 〇

毎週金曜日の「退勤前5分間机上整理」、「回収物・配布物一時保管ケース」の活用。都府サービス事故情報を活用した主幹教諭による啓発で防止に努めている。

### ③ 〇

小規模校化に合った校務組織の設定、分掌の精選と合わせて働き方改革に臨んでいる。ベテラン教員、若手教員を含め勤務時間外での在校は大きく減少している。

## Ⅱ 次年度以降の課題と対応策

### 1 基礎的・基本的な学力の向上

- 学びに向かう「身構え・心構え・物構え」の指導の徹底と発達段階に応じた学習規律と学習習慣の徹底を図る。
- 一人一台の学習用端末を活用した「個別最適化」された課題の設定への取り組みを推進する。
- 話し合い能力を伸ばす対話的な学習の充実。隣接する学年での合同授業など、「話し合う」「考え合う」ことの必要な場面での環境づくりを行う。

|          |                           |
|----------|---------------------------|
| 教育課程届け出済 | 1・2年生活・体育・図画工作・音楽・特別の教科道徳 |
|          | 3・4年体育・図画工作・音楽・特別の教科道徳    |
|          | 5・6年体育・図画工作・音楽・家庭・特別の教科道徳 |

### 2 組織力と行動力を生かした生活指導の推進

- いじめ問題対策委員会による情報共有の徹底。いじめの未然防止、認知、組織的解決、再発防止、共通理解へ向けた全教職員での徹底を行う。
- 小規模校だからこそできる、「共によりよく生きよう、人とのかかわりを大切にしよう」とする児童の自治的な集団への育成を全教育課程で実践する。
- 支援や配慮を必要とする児童への全教職員によるより一層の支援の充実を図る。また、ユニバーサルデザインの視点での学習環境の改善を継続する。

### 3 「川口中学校区」の一貫教育に向けた連携と「キャリア教育」の推進

- 豊かな自然に恵まれた川口中中学校区の強みを生かし、地域の魅力を探究し、未来へつなぐキャリア教育の推進を強く図る。
- 小中一貫教育を目指し、川口中学校と小学校4校による新たな連携に向けた「はちおうじっ子サミット」の活用を検討する。